

研究紹介

名古屋大学大学院文学研究科
清水貴夫

フィールド

- 人口:1,520万人
(UNFPA2008)
- 国土面積:274,000km²
- 言語:フランス語(公用語)
- 首都:ワガドゥグ Ouagadougou
(人口約150万人)



研究のテーマ

1. アフリカ都市研究

アフリカにおいて都市的な空間とはどのような空間なのか？

2. 若者文化研究

こうした都市的な空間は、若者にどのように形成され、若者の文化はどのように生成されるか？(ラスタマンの文化)

3. 「ストリート・チルドレン」研究

「ストリート・チルドレン」がどのように創り上げられるのか？ また、少年[子ども]と会の関連性はどのようなものなのか？

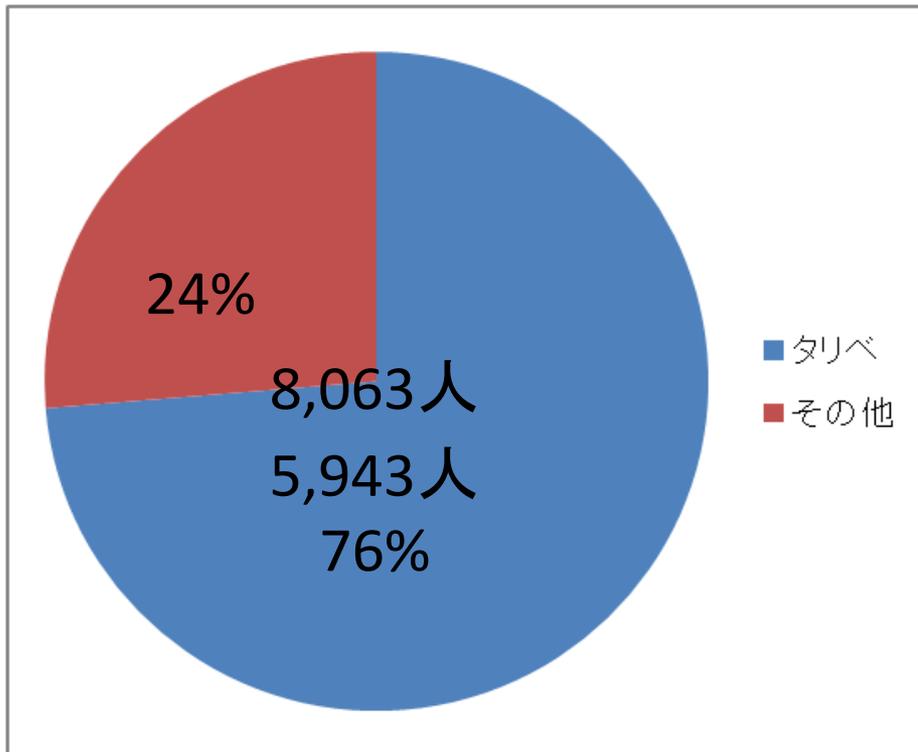
宗教・社会・「ストリート・チルドレン」

(日本文化人類学会第41回学術大会発表資料より抜粋)



ワガドゥグの「ストリート・チルドレン」

イスラーム都市、ワガドゥグにおいて急増する「ストリート・チルドレン」。ローカルNGOによれば、このうち半数以上がコーラン学校の生徒タリベTaribéとされる。



「ストリート・チルドレン」:

ワガドゥグの「ストリート・チルドレン」数は8,063人

タリベ:

全「ストリート・チルドレン」数に対するタリベは5,943人

イスラームの「物乞い」論

~イスラームの「乞食」~

一般市民からのサダカ/ザカート(喜捨)によって生活を維持する乞食は、「金銭と引き換えに天国への切符を売る通常の商行為にほかならない」。「金を恵んでもらった時に、コーランを朗唱する...単にみすぼらしい風体をしたり、不具のふりをする」と言った貧しさを装う。(保坂1992:436,437)

~「喜捨【サダカ】」概念を攪乱する少年たち~

「貧乏人や子供、病人、イスラーム教師、旅人に「喜捨」(サダカ)を施すことが、イスラーム教徒の義務であり、徳であるとみなされている。」
⇒「サダカを逆手に取っている営み」(嶋田1993:272)

~「ストリート・ボーイの象徴としての「物乞い」

「それが「物乞い」のスタイルとしてストリートで生活する少年たちの象徴」(Wangré & Maiga2009)

イスラームと教育機関

マドラサ

11世紀頃よりアラブ地域にできはじめる。多くの場合、支配層に属する個人によって建設されたが、これは明らかに支配権力がウラマー層を必要としていたからであり、実際、多くのウラマーは支配権力と結びつくさまざまな職に就くようになった。(湯川1992:262)

フランコ・アラブ Franco Arabes

コーラン教育と近代教育を折衷した学校。CMBF*はFranco Arabesの増強を目指している。

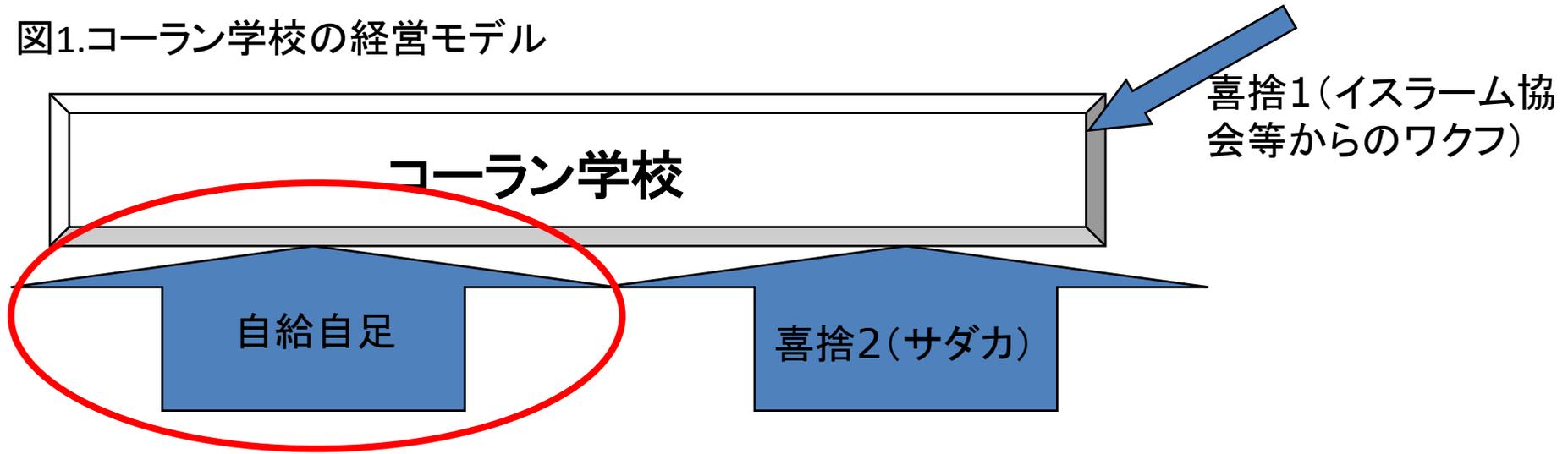
コーラン学校 (école coranique)

イスラーム教師により、自発的に開かれたコーラン教育を行う学校。一般的に寄宿舎制をとる。元来、イスラーム教育はモスクに於いて行われ、現在でも東南アジアで同様の形が見られる。

*CMBF:ブルキナファソイスラーム協会 (Comité Musulman de Burkina Faso)

コーラン学校の運営システム

図1.コーラン学校の経営モデル



ワガドゥグのコーラン学校数

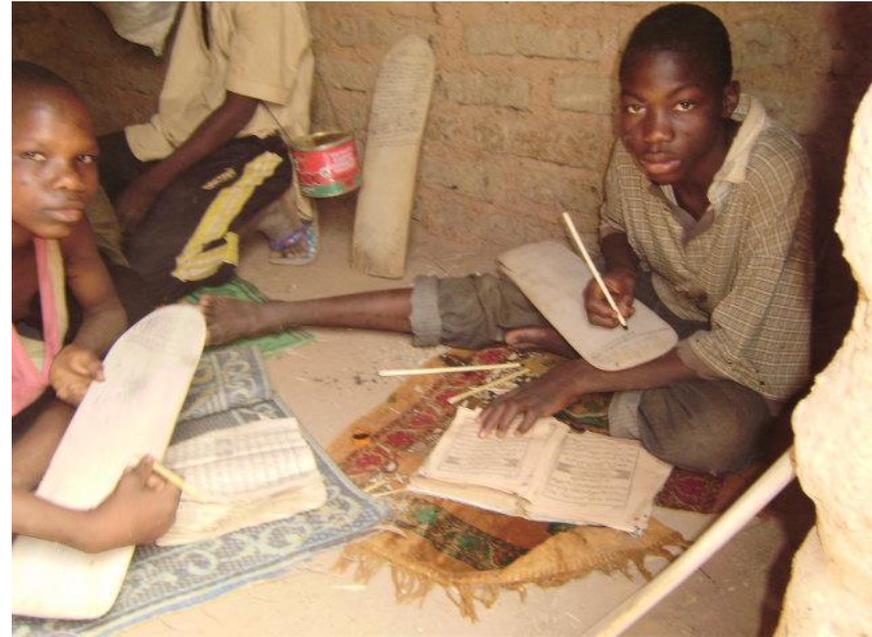
1926年: 70校

1944年: 240校

2010年: 733校

*1926,1944: Skinner1974: 312

*2010: Bandé師への聞き取りより



「物乞い」を巡る語り ～コーラン学校の生活と変化～

「コーラン学校は元々自給自足をしている。マラブーは畑を持ち、その畑をタリベと共に耕す。タリベはコーランを学びながら、生きる術を同時に学んでいく」

(2010.9.1 Barry Idrissa師への聞き取りより)

「現在のタリベの数は35人程度。以前は畑の収穫だけで十分に養えたが、タリベの数が増え、収量が減ってきたために、4～5カ月分の食料しかとれない。ワガドゥグにタリベを移すのは、不足する分を都市で稼ぎ、村で食べる分を都市で食べてもらうことでもある。」

(2010.9.16 Sissé Hassan Adama師への聞き取りを要約 Djiboにて)

「物乞い」を巡る語り ～都市化・近代化とイスラームとの間の相克～

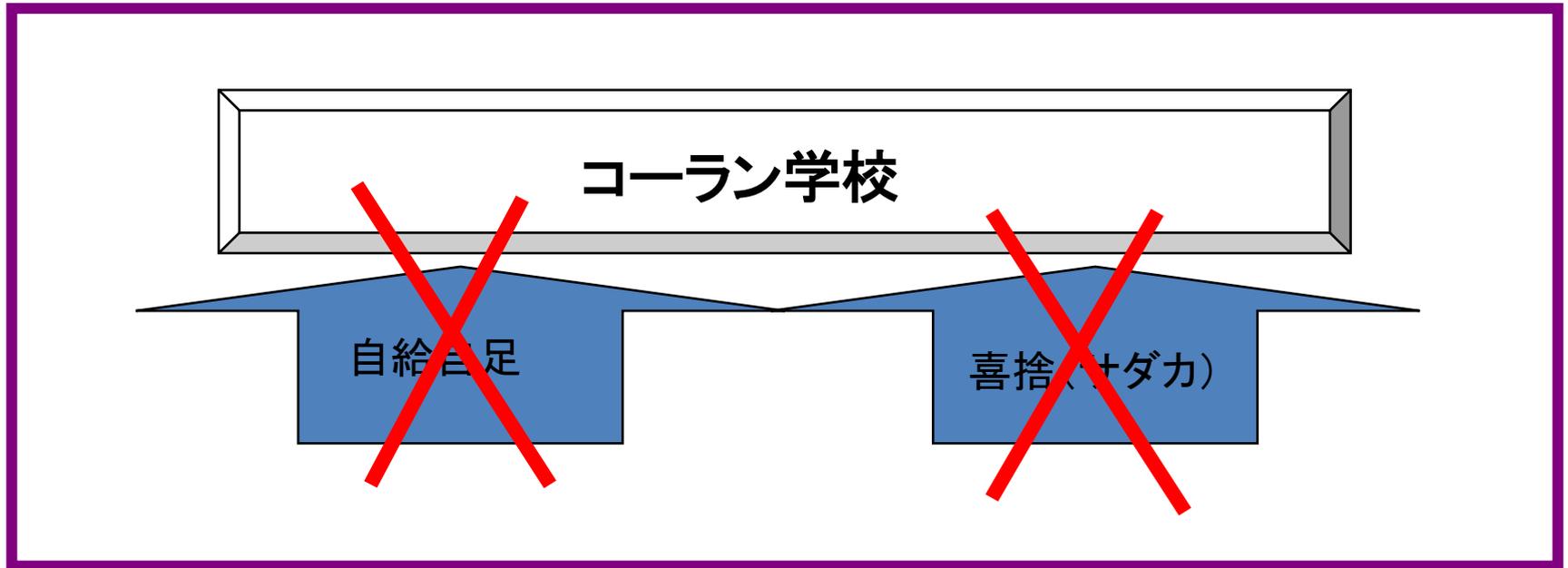
「ワガドゥグの都市化に伴い、マラブーの生活も近代化している。モト(バイク)、携帯電話...マラブーもこうした道具を持つことが多く、カネがいるようになった。このカネを得るために、タリベに物乞いをさせる。500Fcfa(約82円)~750Fcfa(約125円)ほどを集めてくるように言われている。」

(2009.8.18 KEOOGOのサウドゴ事務局長への聞き取りから)

「イスラームは決して子どもたちに物乞いや怠惰を勧めることはない。しかし、仕事のないコーラン学校教師が自分の必要なものを得るために彼の生徒を物乞いに追いたてる」

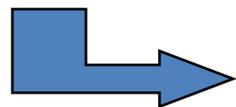
(Wangré&Maiga2009:68-69 El Hadj Triande師へのインタビュー)

コーラン学校の運営システムの困難



★自給自足可能な耕地が用意できない。

★喜捨が集まらない



都市部においては現金の獲得が可能？

「ストリート・チルドレン」への国際社会のまなざし

「就業の最低年齢に関する条約(第138号)」(ILO1973)

労働を禁止する最低年齢を「義務教育年齢及び、いかなる場合にも、15歳を下回らないもの」とし、「健康、安全又は道徳を損なう恐れのある業務につかせることができる最低年齢は、18歳を下回らないもの」としている。



児童労働への関心

「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」 (UNICEF1986)

子どもが「社会においてその責任を十分に引き受けることができるよう必要な保護」を受け、「家庭環境の下で幸福、愛情及び理解のある雰囲気の中で成長」し、「社会において個人として生活するため十分な準備が整えられる」



「無縁」空間と看做されるストリートで暮らす児童(「ストリート・チルドレン」)は必要な保護を受けられていない、と考えられる。

統合されるタリベと「ストリート・チルドレン」

★ホームレス状態の「ストリート・チルドレン」:
Children “of” the street / Enfant “de” la rue

★帰る場所のある「ストリート・チルドレン」:
Children “on” the street / Enfant “dans” la rue

帰る場所(コーラン学校)のあるタリベが「ストリート・チルドレン」に統合

「ストリート・チルドレン」という言葉は、一種のレッテルとして用いられ、偏見をもたらすことがあるため問題がある。このような子どもたちが直面している最大の問題のひとつは、一般社会から忌まわしい存在としてとらえられ、脅威や犯罪行為の源と見なされることである」。(UNICEF2006:40)

ラベリング理論(名付け)とスティグマ化

ラベリング理論

「社会集団は、これを犯せば逸脱となるような規範をもうけ、それを特定の人びとに適用し、彼らにアウトサイダーのレッテルを貼ることによって、逸脱を生み出す。」
(ベッカー1978:17)

スティグマ化

「スティグマとは、スティグマのある者と常人の...二つの役割による社会過程(a perspective two-role social process)を意味している...あらゆる人が双方の役割をとって、少なくとも人生のいずれかの出会いにおいて、いずれかの局面において、この過程に参加しているということ」
(ゴッフマン2003:231)

一つの仮説と問い

問い:どのようにタリベが「ストリート・チルドレン」に組み込まれたのか？

背景1

都市化や近代化が生み出すコーラン学校の経営の変化がタリベに強いる「物乞い」。

現象1

赤いトマト缶や物乞い行為を共有するタリベと「ストリート・チルドレン」の表面的な同質性

問い

イスラームがマジョリティの社会において、イスラーム教育が重視されないのはなぜか?(宗教と社会の問題と子どもの間の視点)¹⁵

【参考文献】

ベッカー、ハワード S (1978)『アウトサイダーズ ラベリング理論とはなにか』村上直之(訳)新泉社

ゴッフマン、アーヴィング (2003)『スティグマの社会学 烙印を押されたアイデンティティ』石黒毅(訳)せりか書房

板垣雄三・後藤明(編) (1992)『事典 イスラームの都市性』亜紀書房 [保坂修司「乞食」]

保坂修司 (1994)『イスラームの乞食』筑摩書房

佐々木宏 (2008)「インドの児童労働問題と子どもの貧困 「危険な労働からの保護」「義務教育の普及」という論理を超えて」浅井春夫・松本伊智朗・湯澤直美(編)『子どもの貧困 子ども時代のしあわせ平等のために』明石書店

嶋田義仁 (1993)『異次元交換の政治人類学』勁草書房

西尾哲夫 (2006)『アラブ・イスラム社会の異人論』世界思想社

日本ユニセフ協会『世界子供白書 2006』

KEOOGO (2009) *Rapport annual d'activités KEOOGO*

Skinner, Elliot P (1966) Islam in Mossi, I.M. Lewis (ed) *Islam in tropical Africa*, Indiana University Press (1974) *African Urban Life: Transformation of Ouagadougou*, Princeton University Press

Wangre, Naba Jérémie et Maiga, Alkassoum (2009) *Enfant de rue en Afrique; Le cas du Burkina Faso* L'Harmattan

【Web】

外務省『児童の権利に関する条約』 <http://www.mofa.go.jp/MOFAJ/gaiko/jido/zenbun.html> (2009.4.27閲覧)

ILO駐日事務所 http://www.ilo.org/public/japanese/region/asro/tokyo/standards/st_c138.html (2011.5.01閲覧)